



佐々木 亮 議員



録画映像

市政運営に関する件

問 学校教育（アナログ的職業体験とデジタル教育のバランス）については

答 教育長
バランスを念頭に置き、現在の取り組みを引き続き実施したい

問 多様な価値観に耳を傾けながら進める市政運営には、バランス感覚が求められると考えます。

これまでの一般質問で、人口減少社会に関連して発生する町内会活動の課題、地域防災の課題、学校教育の可能性等について提言を続けてきましたが、以下について改めて見解を伺います。
(1)町内会活動等（人と金のバランス）の支援については、役員やボランティアの成り手不足が進む中での、文書配布や除雪サービス事業など協働の在り方は。
(2)産業の育成（新規開拓と地場産業強化のバランス）について。
ア 企業誘致活動の直近の状況は。
イ 一次産業支援の今後の見通しは。

(3)学校教育（アナログ的職業体験とデジタル教育のバランス）について。

答（市長） (1)文書配布は、昨年8月から配布回数を月1回に変更し、町内会の負担軽減を図っていますが、人の確保が困難になった場合は、民間委託など様々な手法により実施することが考えられます。高齢者等への「除雪サービス」は、町内会での対応が難しい場合には、社会福祉協議会の市民活動サポートセンターに登録したボランティアの方などに対応いただいております。今後も、現在の実施体制を維持できるよう、関係者と情報共有等を図り、対応を協議してまいります。

(2)ア 新函館北斗駅前における企業誘致活動としては、昨年2月にDXの推進に関する包括連携協定を締結した東京に本社を置くIT企業が、本年1月にサテライトオフィスを開設し、さらに、当該IT企業の関連企業の経営者の方々からは、地方拠点開設の候補地として、新函館北斗駅前に高い関心を寄せています。

イ 農業については、施設園芸用ハウス等導入事業、農業機械等導入支援事に関して、生産性や効率性の検証を行いながら、今後も実施してまいります。林業については、計画的な森林整備を図りつつ、木育活動の取り組みや担い手に対する支援を継続してまいります。

水産業については、生産性の向上を図

り、経営改善に資する漁業用設備導入への支援を目的に、漁業経営体質強化支援事業を令和7年度予算に計上しました。

答（教育長） (3)アナログ的職業体験では、各学校において職場見学、職場体験を総合学習等で行っており、小学校では、市役所、消防署など市内の事業所への職場見学のほか、航空会社のパイロットや動物病院の獣医師など、様々な職種の方々から講演していただく学校での出前講座、本市の基幹産業である、米やトマト、ネギなどの栽培及び収穫、アサリ採りなどの体験学習を行っています。

また、中学校では、「職業観を深めるとともにふるさと北斗を知り・学ぶ」を目的とした市内企業の職場体験、「近郊地域の函館市を調査し、本市との比較検討」を目的とした函館市内の職場見学等を実施しています。

一方、デジタル教育のうち、職業体験としての取り組みについては、職場見学や職場体験を実施するに当たり、タブレット端末を活用し、事前にその職場・職業のイメージや概要を捉え、質問などに役立てるとともに、体験で得た情報をデジタル化し、グループ発表するなどの取り組みを行っているほか、Zoom等を活用した企業や学校間との共同・連携にも取り組んでいます。

職業体験は、生徒が直接働く人と接す

ること、また実際に知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことや働くことの意義を理解することが目的であり、自身の将来に夢や希望を抱き、その実現に向けて、必要な基礎知識や技術・技能の習得への理解や関心、望ましい職業観、勤労観を育成する必要があることから、今後もアナログとデジタルのバランスを念頭に置きながら、現在の取り組みを引き続き実施してまいります。

問 コミュニケーション能力、問題解決能力を具体的にどう醸成していくのか。また、学校での取り組みはあるのか。

答（学校教育課長） 各学校で課題を出し、グループ制で考え、自分の意見を話す、人の意見を聴く、表現できる、PRできる場を設けています。

また、総合学習や、ほかの授業でも教科横断的に取り組んでいます。



タブレット端末を活用した授業風景(市内小学校)